

熊本県下益城郡砥用町における 身体感覚を表すオノマトペ

井上博文

はじめに

1. 調査地の概要；県都熊本市より約40km南東の、九州山地の麓に位置し、農林業を産業とする（ほとんどが兼業）山間の集落である。
2. 調査年月日；平成4年1月2日
3. 教示者；井上益男（m.S.2）[♂]、井上春江（f.S.7）（調査者の両親）
4. 調査者・調査場所 いずれも教示者宅
5. 調査方法・調査時の様子；配布の調査票に基づき面接調査。雑談をまじえつつ、くつろいだ雰囲気の中で行う。
（注、「男性で昭和2年生まれ」であることも表す。女性は「f」で示す。）

I 全身の感覚

1-1. 快不快

スワーット 快。○ヨゴレチ キ「ター」リ ナン シタリシテ ア「シェデン デタ」リ
シテカッ フ「コー イッテ ア「ガッ」ドガ ストシャガ ス「カー」ツト
ナッ「タテ ユー タイ。（m.S.2） 汗をきまりなにかして汗をかき出してから、風呂に入って上がるだろう、
おぼろげとスカトなとさう。

1-2. 寒さ

ガタガタ 寒さや恐ろしきで震えるとき。

ブルブル（ブルブル・ブルブル） 寒さで震えるとき。ガタガタよりも震えが大きい。

○「サン」カー ブルブル フル「ー。（f.S.7） 寒いのが震える。

ズート（ズート） 風邪をひく前やぞっとしたときに背筋が寒くなるとき。

ズース 背中が寒いとき。○「スー」ス スー。サ「ム」シ ノ「サーン。（f.S.7） ズース
する。寒くてまぢない。

1-3. 熱さ

ホワホワ（ホッホホ） 快い暖かさ。○ホッ「カホ」カ スル バ「イ。（f.S.7）
（風呂に入った）あつたあつた。

クワット 急に熱くなるとき。

II 皮膚の感覚

ヒリヒリ（ヒリヒリ） 日焼けややけどのとき。○「ヨート」ト ゴ「チャン」ナ「ン ヤ」
キタクルゴツ シタ「ケ ヒ「リヒリ スッ」ゾ「イ。（m.S.2） またく神まで焼く
うじたが（肌出たが）、と比喩する。

ベタベタ 汗などでべたつくとき。

ムズムズ 背中などに動くものが入ったとき。○ム「ズムズ スン」 ニヤー。ナ「ン
ノ イットル カ」イ。ハ「グッテ ミ「テミ」ロ。(m. S. 2) (背中)ムズムズするなあ。
何が入っているかい。めくって見てみる。

クワクワサ (グワサ—グワサ) 皮膚が荒れたとき。○グワ「サーグワ」サ スルゴツ 「テ」
ン シ「ナッ」タ。(m. S. 2) グワグワするよに手荒れてしまった。

チヨレチヨレ 肌のすべりのよいとき。

ヒリヒリ (ヒリ—ヒリ) 切傷のとき。○オ「ラー ソ」ン ウ「ズクゴ」テ イタカ
ゾ「イ。ヒ「リヒ」リ スッ」ゾ。(m. S. 2) おねほその、うずくようにひたいよ。ヒリヒリするよ。

ズキズキ (ズク—ズク) うずくとき。○ズ「クーズ」ク ウ「ズク。(f. S. 7) ズク—ズクうずく。

チクツト (チク—ツト) 針で刺したり蚊が刺したりしたときの軽い痛み。

チカチカ 軽く刺すような刺激があるとき。○ゴチャン 「カユ」シ オ「コナエ」ン。
ミ「テ」ミロ— 「ナン」カ 「ヒヤツチャ オラン カ。チ「カチカ ス」ル。
(f. S. 7) 背中痒くてたまらない。見てみる、何が入ってはいないか。チカチカする。

ジカジカ (ジカ—ジカ) 着物と皮膚との間に異物が入って刺すような不快な刺激があ
るとき。○キ「モン アイジャ」 「ナン」カ ヒヤツ「チャ オラン」カ。
ジ「カージ」カ スッ」ゾ。(m. S. 2) 着物の間に何が入ってはいないか。ジカ—ジカするぞ。

III 頭部の感覚

3-1. 頭

ガンガン 割れるように痛いとき。○アー「タ オ「ーイ」 ム「コズラン イト」ーシ
オ「コナエ」ン ソ。ガ「ンガン スッ」。(m. S. 2) ああ、ふーい、髪が痛くてたまらないよ。がんが
んする。

ワンワン 頭全体が痛いとき。○ワ「ンワンチュー」ガ 「モ」ー 「コ」ー ア「タマイッ
ペ イタカッ」タ。(m. S. 2) ワンワンというのが、もう、こう、頭全体痛いのだよ。

フラーフラ・フラーツ 熱などがありふらふらするとき。

3-2. 顔面

カ—ッカ・ク—ツト 急に熱くなった(赤くなった)とき。○ツラン 「カーツ」カ
スルゴツ ナッ」タ。(f. S. 7) 顔がカ—ツカするようになった。

3-3. 目

チロ—チロ 目が疲れたとき。

バ—ツト 目が疲れて見えにくくなったとき。○メノ 「バ—ツト シテ ミ「エン
ゴツ シナツタ。(f. S. 7) 目がバ—ツトして見えにくいようになった。

ゴロゴロ ゴミなど異物が入ったとき。○メ「ン ヒヤツタ。「ハ」ヨ トツ「テ ハイ
ヨ—。「ホ」ラ「ホ」ラ「ホ」ラ ハ—「イ ゴ「ロゴロ スッ タ—」イ。
(f. S. 7) 目に入った。早くとってください。ほらほら早く、ゴロゴロするよ。

3-4. 耳

チニーン 大きな音がしたとき。○アー シェ「カラシカー。'チュ'ーン'テ ユーケ
オ「メクナー。(m.S.2) ああ、うるさい。(耳が)チュツというから大きな声を出す。

グジャーグジャ 汗が出ているとき。

3-5. 鼻

ムズムズ くしゃみの出そうなどときなど。

ムジャームジャ 違和感があるとき。○ハ「ナン ム「ジューム'ジュ スツ。カ'ゼ
ヒー'タツダ'ロ'。(f.S.7) 鼻がムジュームジューする。鼻が痛いとき。

ツーンツ (ツント) わさびを食べて鼻にぬけるととき。○ナ'ミダン ズ'ルゴテ 'ツ'ン
テキタ。(f.S.7) 鼻がズンズンとき。

3-6. 口

(口全体)

ネチャネチャ 口の中でねばったりくっついたりするとき。

ニチャニチャ (ニチャーニチャ) やわらかく、べたべたくっつくとき。

ベタベタ 納豆などねばりけのあるとき。

(歯)

ガタガタ 入歯がずれてうまく噛みあわないとき。。

ズグーンズグーン 持続的に痛むとき。瞬間的な痛みは動詞スビクを用いる。

(舌)

ピリピリ (ピリーツト) 辛いものを食べたとき。

3-7. 喉

カラカラ 喉が乾いたとき。

ヒューンヒューン・ヒューン 風邪をひいて喉がなるとき。

ジェロジェロ (ゼロゼロ) 風邪などで喉を痛めたとき。○ノ'ドヤツガ ジェ'ロ'ジェ
ロ ニー。(f.S.7) 喉がジェロジェロ。

IV 胴体の感覚

4-1. 肩

動詞としてコル・コワル (凝る) がある。○アー' カ'タボシ'ノー
'オ'イ コツチ ワ'ド'ギャ'ン カ シ'チャ オラン' カ。ヘ'キノ
イタカ。カタン コツ'タ'ケー。(f.S.7) ああ、肩が、おい、こっちはどうかしていな。肩が痛い。
肩が凝ったから。

4-2. 胸

ドキドキ (下キ下キ下キ下キ) ・ドキーンツト 緊張したり驚いたりしたとき。○アン
ワンノ アスケ'ー ヒョ'クツ'テ タタイタ'ケ ド'キーンツ シタ
ゾ。(f.S.7) あの人があそこ突然に立つたからドキーンツしたよ。

ズキーンズキン (ズッキンズッキン) ズキーンズキンの方が痛みの間隔が長い。

ズーット 恐ろしいとき。○ム'ネヤ'ツガ 'ズー'ト シタ クサ'イ。(f.S.7)
胸がズーットはよ。

ムカムカ・ムフーット 気持ちが悪いとき(腹がたつたときも)。○ア'ルバ クタケ
'ン イ'ツマッデン ムカムカ シト'ッ'ゾ。(m.S.2) おなをたつたから、いつまでも
かみかしているよ。

4-3. 腹

(空腹)

ダーグ (ア'ー'グ) 空腹の(ヒタルカ)とき。○ハ'ヨ メ'シ ク'セ'ニヤ ヒ'ダル
シ オコナエン' ソ。ハ'ラヤツ'ガ 'グ'ー'グ'ユー。(f.S.7) 早く飯を食
せないと腹が減ってたまらないよ。腹がグーグいう。

(満腹)

ダブダブ 水など飲みすぎたとき。

チャブチャブ (チャブ'ー'チャブ) 水など飲みすぎたとき。

パンパン 満腹のとき。

(腹下し)

グワ'グワ' (グワ'ン'ダ'グワ'ン'ダ) 下痢する直前。○オルガ ハラ'ワ 'グ'ワ'ン'ダ'グワ'ン'ダ'
ユー。(m.S.2) おれの腹はグワ'ン'ダ'グワ'ン'だいう。

4-4. 胃

ジワ'ジワ' 緩慢な痛みするとき。○キョ'ー'ワ ハラ'ヤツ'ガ ジ'ワ'ー'ジ'ワ' イタカ
ク'サイ。(m.S.2) 今日は腹がジワ'ー'ジ'ワ'い。

ズキンズキン ジワ'ー'ジ'ワ'よりも痛い。

キリー'ット 急にさしこむ痛みするとき。

4-5. 尻

ムズ'ムズ 居心地が悪いとき。皮膚感覚としてナマ'ガイ'カ<何となく痒い>ことを表
すことが普通。

モヤ'モヤ (モヤ'ー'モヤ) 居心地が悪いとき。○ジ'ゴン モ'ヤ'ー'モ'ヤ' ス'ッ。
(f.S.7) 尻がモヤ'ー'モヤする。

V 手足の感覚

(手)

ブル'ブル (ブル'ー'ブル・ブル'ブル'ー) 震えるとき。○アンタ サ'ケ'バ'カ ノ'ム'ケ
フ'ル'ー'ゴ'ッ' ナ'ツ'タ' タ。ブ'ル'ー'ブル フ'ル'ー。(f.S.7) おなかが酒ばか
り飲むから震えるようになったよ。ブル'ー'ブル震える。

(足)

ガク'ガク (ガク'ー'ン'ガク'ン) 疲れて立ってられないようなとき。○ヒョ'ク'ー'ト
サ'レ'タ'ケン'ダ'ロ。ガ'ク'ー'ガ'ク' ス'ッ (m.S.2) 急に寝たからだろう。(足が)ガク'ー'ガク

る。

(その他)

ニョ[○]ロー[○]ニョ[○]ロ すべってつかめないとき。○ニョ[○]「ロー[○]ニョ[○]」ロ シテ ニ[○]「ギリヤ
デケン バ[○]ウ。(m. S. 2) ニョ[○]ニョ[○]ル[○]で[○]解[○]る[○]こ[○]と[○]は[○]で[○]き[○]い[○]は[○]。

ヌルヌル(ヌルーヌル) 鯉やなまずなどの手触り。

チョ[○]レー[○]チョ[○]レ(チョ[○]ロー[○]チョ[○]ロ) 石けんなどの手触り。○セツケ[○]「ンデ アルタ[○]ケ
チョ[○]「レー[○]チョ[○]」レ スルゴツ ナツ[○]タ。(f. S. 7) 石[○]け[○]ん[○]で[○]洗[○]う[○]た[○]か[○]ら[○]チ[○]ョ[○]レ[○]チ[○]ョ[○]レ[○]は[○]注[○]
文[○]。

VI 関節(骨)の感覚

ブキ[○]ー[○]ブキ(ブキ[○]ー[○]ブキン)・ブキ[○]ット 関節が曲がったり骨が折れるようなとき、
ボキ[○]ット ブキ[○]ットの方が折れ方が甚だしいことを表す。

まとめ(いくつかの気付き)

(1) 語アクセントは、高低差が小さく、一本調子に聞こえることが多い。4拍語の場合には○●●○のように中央がゆるやかにふくらか、○●●●のように聞こえる。ただ、文中で強調されるときには高低差がはっきりとなる。

(2) ①第二音節の母音が長呼されたものが多く認められ、例えば、ヒリ[○]ヒリとヒリ[○]ー[○]ヒリ、ムズ[○]ムズとムズ[○]ー[○]ムズのように長呼されないものと対をなしている。長呼される場合には、その感覚の程度が強調されるのである。しかし、程度性ばかりの問題ではなく、その語の表す感覚の持続の間隔とも関わっている。すなわち長呼される場合には間隔が長く、反対に長呼されない場合には間隔が短いことを表している。②また、例えばブル[○]ブルがブル[○]ブルーに、最終音節の母音が長呼される場合も稀に存する。①②ともに4拍の語であれば結果として5拍で奇数拍となり、共通語において偶数拍であることが普通であるのと対照的である。

(3) 例えばズキ[○]ズキがズキンズキンとなるように撥音が挿入されると、その一回の感覚の長さが長く、大きいことを表す。ズッ[○]キンズ[○]ッ[○]キンと促音が入ると、さらに一回一回の感覚がつぶだち大きなことを表す。

(4) オノマトベ以外にも身体感覚を表す語が得られた。形容詞として、イ[○]カ、イ[○]カ[○]、イ[○]カ[○]ー[○]イ[○]カ(痛痒い)、ナマ[○]カ[○]イ[○]カ<何となく痒い>、エ[○]カ(一)カ<えぐい>、動詞としてウ[○]ズク、シ[○]ユム(沁みる)、ス[○]ビク<歯に瞬間的に痛みが走る>、ヒ[○]デ[○]ッ<皮膚がひりひりする>、シ[○]ビ[○]ル[○]ッ(痺れる)などである。組織的に調べることによってさらに豊かな語彙(言い回し)を得ることができると予想される。

(いのうえ ひろふみ 広島大学文学部)